事業番号 新29 - 0011

事業開始年度 事業終了 (予定)年度 平成31年度 担当課室 道路交通管理課 ITS推進室 室長 西尾 会計区分 一般会計 機概法令 (具体的な 条項も記載) 事業の目的 (目指するを簡潔に、3行程度以内) 自動走行システムの実現・普及に当たっては、車載カメラやレーダー等による周辺監視では把握できない先読み情報が不可欠であり、当調システムを通じて車両に提供する仕組みが必要である。本事業では、分合流部等の複雑な交通環境における自動運転を支援するための新たな路車協調システムに関する技術開発を行い、自実現や道路交通の円滑化、安全性の向上に貢献することを目指す。 事業概要 (5行程度以内。別添可) 分合流部等の複雑な交通環境で、自動運転を支援するため、道路側から情報提供を行うなど、新たな路車協調システムのあり方につい事業概要 会託・請負 実施方法 委託・請負	該情報を路車協助走行システムの						
## (予定) 年度	該情報を路車協動走行システムので検討を行う。						
根拠法令 (具体的な 条項も記載) 主要政策・施策 事業の目的 (目指す姿を簡潔に、3行程度以内) 内) 事業概要 (5行程度以内。別添可) 東地方法 要施方法 (具体的な 条項も記載) 「官民ITS構想・ロードマップ等 をの他の事項経費 はおいるに、主要による情報を表し、と思い。 本事業では、分合流部等の複雑な交通環境における自動運転を支援するための新たな路車協調システムに関する技術開発を行い、自実現や道路交通の円滑化、安全性の向上に貢献することを目指す。 を事業概要 (5行程度以内。別添可) を発達して、自動運転を支援するため、道路側から情報提供を行うなど、新たな路車協調システムのあり方につい を発達して、自動運転を支援するため、道路側から情報提供を行うなど、新たな路車協調システムのあり方につい を実施方法 を表に・請負	動走行システムの て検討を行う。						
・	動走行システムの て検討を行う。						
	動走行システムの て検討を行う。						
	動走行システムの て検討を行う。						
□	動走行システムの て検討を行う。						
事業概要 (5行程度以内。 別添可) 実施方法 委託・請負							
	年度要求						
26年度 27年度 28年度 29年度 30	年度要求						
2012 2112 2112 3							
当初予算 40							
予算 前年度から繰越し							
予算額 ·							
(単位:百万円)	0						
計 0 0 40	0						
執行額							
執行率(%)							
当初予算+補正予算に対す							
歳出予算目 29年度当初予算 30年度要求 主な増減理由							
道路交通安全対策費 40							
平成29·30年度 予算内訳 (単位:百万円)							
その他 0 0							
計 40 0							
定量的な成果目標 成果指標 単位 26年度 27年度 28年度 中間目標 - 年度	目標最終年度						
成果目標及び 成果実績 地点	-						
(アウトカム) 術仕様書に基づいたサー 術仕様書に基づいたサー 目標値 地点 - - -	10						
ビスの普及 ビスの導入地点数 達成度 % - - -	-						
て用いた ニータ名 国土交通省道路局調べ(平成29年6月) 典)							
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載 チェック							
活動指標及び 活動指標及び 活動 1 標 単位 26年度 27年度 28年度 活動 1 2 2 2 2 2 3 年度 活動 1 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 3 2 3 3 3 3 3	30年度 活動見込						
活動実績 (アウトプット) 自動運転支援に関する民間企業との共同研究で策定 する技術仕様書	-						
算出根拠 単位 26年度 27年度 28年度 29年度	度活動見込						
単位当たり 自動き行え会かか世代のITS構築に向けた攻車位置にプロスト	40						
コスト ステムに関する検討経費/自動運転支援に関する民 エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エ	40/1						

		政策	政策 5 安全で安心できる交通の確保、治安・生活安全の確保												
		施策 15 道路交通の安全性を確保・向上する													
		204	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標	目標年度					
政策評価、	政策評価	測定指標	_	実績値	-	-	-	-	-	-					
経		機		目標値	-	-	-	-	-	-					
済・		本事業の成果と上位施策・測定指標との関係													
財政再生アク		_													
アクシ		改革 項目	分野:												
/ョン・		第一	KPI (第一階層)		単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標	目標最終年度					
プ	_	第一階層 「		成果実績	ı	-	-	-	-	-					
グニ	アクル		_	目標値	-	-	-	-	-	-					
4	シ経ョ済			達成度	%	-	-	-	-	-					
ログラムとの関係	ン・財の	第	KPI (第二階層)		単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標- 年度	目標最終年度					
係	ロ再グ生	(第 K F I 階 ■		成果実績	-	-	-	-	-	-					
	プログラム	層Ⅰ	-	目標値	-	-	-	-	-	-					
				達成度	%	-	-	-	-	-					
			本事業	の成果と	女革項目	・KPIとの関係									
		_													

事業所管部局による点検・改善事業所管部局による点検・改善										
			項目	評価	評価に関する説明					
国费	事業の目的	は国民や社会のニー	 ズを的確に反映しているか。	0	道路交通の安全性の向上・円滑化に寄与。					
	地方自治体	、民間等に委ねること	ができない事業なのか。	0	公益性、専門性、技術性の観点から国が実施することが必 要。					
代の必要	政策目的の事業か。	達成手段として必要か	つ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い	0	交通事故死者数等の道路交通問題を抜本的に改善させる ために路車協調システムの開発を進めることは必要かつ優 先度が高い。					
	競争性が確	保されているなど支出	先の選定は妥当か。	-						
		競争契約、指名競争契 芯札又は一者応募とな	約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、 ったものはないか。	無	-					
	競争性	生のない随意契約とな	ったものはないか。	無						
事	受益者との負	負担関係は妥当である	らか。	-	-					
業の	単位当たりコ	コスト等の水準は妥当	か。	-	-					
効率	資金の流れ	の中間段階での支出	ま合理的なものとなっているか。	-	-					
性	費目・使途か	が事業目的に即し真に	必要なものに限定されているか。	-	-					
	不用率が大	きい場合、その理由は	妥当か。(理由を右に記載)	-	-					
	繰越額が大	きい場合、その理由は	妥当か。(理由を右に記載)	-	-					
	その他コスト	削減や効率化に向け	た工夫は行われているか。	-	-					
事	成果実績は	成果目標に見合ったも	らのとなっているか。	-	-					
業の		当たって他の手段・方 低コストで実施できてし	法等が考えられる場合、それと比較してより効果 いるか。	-	-					
有効	活動実績は		つであるか。	-	-					
性	整備されたが	施設や成果物は十分に		-	-					
		業がある場合、他部局 フ具体的な内容を各事	・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 業の右に記載)	-						
	所管府省名	事業番号	事業名							
関連			-							
事業			-		-					
*			_							
			-							
点検・お	点検結果	・当該予算の執行は関	国土交通省で実施し、全ての支出先を把握可能。							
改善結果	改善の									
果	方向性	_								
				Į.						
			一	んの託見						
	-		コペテネグレユ 正だ/		<u> </u>					
			 所見を踏まえた改善点/概算要求/:	こおける	反映状況					
	<u> </u>			. , ,						
			備考							

関連する過去のレビューシートの事業番号									
平成22年度	_	平成23年度	_	平成24年度	-	$\overline{/}$			
平成25年度	-	平成26年度	-	平成27年度	-	$\overline{/}$			
平成28年度	新29-0013					\mathbb{Z}			

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国土交通省 (40百万円)

検討の企画立案、実施

A. 民間企業等

自動走行を含む次世代のITS構 築に向けた路車協調システムの 検討等

資金の流れ (資金の受け取 り先が何を行っ ているかについ て補足する) (単位:百万円)

事業番号 新29 - 0012

			고	ヹ゙゙成 2	9年度行	政	事業レ	ビュ・	ーシート		国土	交通省)		
事業名	自動審査システムの強化による特車通行許可の迅速化に関する検討経費								道路局		<u> </u>	作成責任者			
事業開始年度		t29年度	事業 (予定	終了)年度	平成3 14	年度	担当	課室	道路交通管	理課 車両	理課 車両通行対策室		賢彦		
会計区分	一般会	会計													
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	道路沒	去第47条						関係する計画、 経済財政運営と改革の基本方針2016、E 規制改革実施計画 等					再興戦略2016、		
主要政策·施策	-						主要	三要経費 その他の事項経費							
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	最近の車両の大型化により、トラック事業者からの申請件数が増加し、許可までの審査日数も増加しており、事業者からは、機動的な輸送計画が立てれないなど、経済的、社会的な損失が多大であることから、審査の迅速化に対して強い要望がある。 トラック輸送の生産性向上については、「経済財活と改革の基本方針2016」等において、「特車通行許可の迅速化」を図り、「生産性革命」に向けた取組を加速し、2020年までに平均審査日数を、現在約1ヶ月から10日間程度に短縮を目指すこととしている。										ては、「経済財政運				
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	特車許可の迅速化のため、未収録路線の状況整理、申請件数の多い重点収録区間のデータ収集、当該データを活用した調査票の作成、未収録区間解 消に向けた効果的な収集手法の整理等、許可期間短縮に向けた道路情報便覧収録方法の実行性等を検証する。														
実施方法	委託・	請負													
				26	6年度		27年度		28年度		29年度	30)年度要求		
		当初予			-		-		_		77				
		補正予			-		-		-		-				
	予算の状				-				-		-		-		
予算額・	況	翌年度へ			-				-						
執行額 (単位:百万円)		予備費	[寺 ————		-		_			-					
	計			0		0		0		77		0			
	執行額				0		0		0						
	執行率(%)				-		-		-						
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)			-		-		_							
		歳出予算目	1	29年度	29年度当初予算 30年度						主な増減理	由			
	道路交通安全対策費			77											
平成29·30年度 予算内訳 (単位:百万円)															
		その他			0		0								
	計				77		0								
	'n	E量的な成果	目標		成果指標			単位	26年度	27年度	28年度	中間目標	目標最終年度		
成果目標及び 成果実績							成果実績	日	-	28	-	-	-		
(アウトカム)		審査日数を平 までに10日と		平均審査	E 日数		目標値	日	-	-	_	-	10		
	及个	~ CICIUDE	, _O				達成度	%	-	-	-	-	-		
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	- データ名 国土交通省道路局調べ(平成28年4月)														
成果目標	果及び	成果実績(ア	ウトカム)	欄につい	てさらに記載	が必	要な場合	はチェッ	クの上【別紙1	】に記載	チェ				
活動指標及び 活動実績	活動指標					活動実績	単位 km	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	30年度活動見込			
(アウトプット)	道路忖	青報便覧の追	加収録到	延長(累積	長(累積)		当初見込み	km km		_		200	_		
			省 出	根拠				単位	26年度	27年度	28年度				
124 AL AIR 2			开山	以及			単位当たり	百万円/kr			- 20十尺	20-4			
単位当たり コスト		審査システ <i>L</i> 関する検討約					計算式	百万円/ド		-	_	-	0.4 77/200		

		政策	政策 5 安全で安心できる交通の確保、治安・生活安全の確保												
		施策	15 道路交通の安全性を確保・向上する												
		294	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標	目標年度					
政策評価、	政策評価	測定指標	_	実績値	-	-	-	-	-	-					
価、経済		198		目標値	-	-	-	-	-	-					
•		本事業の成果と上位施策・測定指標との関係													
財政再生アクシ		_													
ナクシ		改革 項目	分野:												
/ョン・		第一	KPI (第一階層)		単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標	目標最終年度					
プ	_	第一階層 「		成果実績	-	-	-	-	-	-					
			-	目標値	-	-	-	-	-	-					
7	シ経ョ済			達成度	%	-	_	-	-	-					
ログラムとの関係	ン・財政	第	KPI (第二階層)		単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標- 年度	目標最終年度					
係	ロ再グ生	(第K 円 階■		成果実績	-	-	-	-	-	-					
	プログラム ス 政再生	層「	-	目標値	-	-	-	-	-	-					
				達成度	%	-	-	-	-	-					
			本事業	の成果とは	英 項目	KPIとの関係									
		_													

	事業所管部局による点検・改善事業所管部局による点検・改善									
			項目	評価	評価に関する説明					
	事業の目的は国民や社	t会のニーズを	・ 的確に反映しているか。	0	トラック輸送の機動性が強化され、物流の生産性向上に寄 与。					
費 投 性入	地方自治体、民間等に	委ねることがて	できない事業なのか。	0	い。 公益性、専門性、技術性の観点から国が実施することが必要。					
の必要	政策目的の達成手段と 事業か。	こして必要かつ	適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い	0	特殊車両通行許可申請に対する許可の迅速化を抜本的に 短縮させるために自動審査システムの強化を進めることは 必要かつ優先度が高い。					
	競争性が確保されてい	るなど支出先の	の選定は妥当か。	-						
	一般競争契約、 一者応札又は一		又は随意契約(企画競争)による支出のうち、 とものはないか。	無	_					
	競争性のない随	意契約となった	-ものはないか 。	無						
事	受益者との負担関係は	妥当であるか。	0	-	-					
業の	単位当たりコスト等のフ	k準は妥当か。		-	-					
効率	資金の流れの中間段階	皆での支出は合	注理的なものとなっているか。	-	-					
性	費目・使途が事業目的	に即し真に必要	要なものに限定されているか。	-	-					
	不用率が大きい場合、	その理由は妥	当か。(理由を右に記載)	-	-					
	繰越額が大きい場合、	その理由は妥	当か。(理由を右に記載)	-	-					
	その他コスト削減や効果	率化に向けたコ	E夫は行われているか。	-	-					
	成果実績は成果目標に 成果実績は成果目標に	こ見合ったもの。	となっているか。	-	-					
事業の	事業実施に当たって他 的あるいは低コストで写		等が考えられる場合、それと比較してより効果 か。	-	-					
有効	活動実績は見込みに見	見合ったもので	あるか。	-	-					
性	整備された施設や成果	物は十分に活	用されているか。	-	-					
	関連する事業がある場 (役割分担の具体的な		2府省等と適切な役割分担を行っているか。 の右に記載)	-						
	所管府省名 事業	番号	事業名	I						
関連事業		-								
点検・☆	点検結果·当該予算	- の執行は国土	交通省で実施し、全ての支出先を把握可能。							
改善結果	 改善の									
果	方向性 一									
			外部有識者の所見	ļ.						
			行政事業レビュー推進チー	ムの所見	ŧ					
			所見を踏まえた改善点/概算要求に	こおける」	互映状況					
	i .		備考							

ı

	- 関連す	る過去のレビューシートの事業番号	<u> </u>	
 平成22年度	平成23年度	した カンピューン 「の子木田・	平成24年度	
		+		+
平成25年度	平成26年度		平成27年度	4//
平成28年度	新29-014	* が担悪や事業については頂吐 ba	77 h / / N + = 1	
資金の流れ (資金かるのでででででででででででででででででででででででででででででででででででで		国土交通省 (77百万円) 検討の企画立案、実施 A. 民間企業等 自動審査システムの強化による 特車通行許可の迅速化に関する 検討等		